

歯・口の健康づくりの目標

- (1) 歯・口の健康づくりに関する学習を通して、自らの健康課題を見つけ、それをよりよく解決する方法を工夫・実践し、評価して、生涯にわたって健康の保持増進ができるような資質や能力を育てる。
- (2) 歯・口の健康づくりの学習を通じて、友人や家族など他人の健康にも気を配り、自他とも健康であることの重要性が理解できるようにする。
- (3) 健康な社会づくりの重要性を認識し、歯・口の健康づくりの活動を通じて、学校、家庭および地域社会の健康の保持増進に関する活動に進んで参加し、貢献できるようにする。

健康日本21の目標

■学齢期のう蝕予防の目標

- ・12歳児における1人平均う蝕数（DMF歯数）の減少

目標値：12歳児における1人平均う蝕数（DMF歯数）1歯以下

基準値：1人平均う蝕数 12歳児 2.9本（平成11年学校保健統計調査）

・リスク低減目標

- ・学齢期におけるフッ化物配合歯磨剤使用者の割合の増加

目標値：学齢期におけるフッ化物配合歯磨剤使用者の割合 90%以上

参考値：児童のフッ化物配合歯磨剤使用率 45.6%（荒川らによる調査、平成3年）

- ・学齢期において過去1年間に個別的歯口清掃指導を受けたことがある者の割合の増加

目標値：過去1年間に個別的歯口清掃指導を受けたことがある者の割合 30%以上

参考値：過去1年間に歯磨き指導を受けたことのある者 15~24歳 12.8%

（平成5年保健福祉動向調査）